

八代市災害支援報告

社)横浜市私立保育園こども園園長会

訪問日:2026 年 8 月 18 日(火)~20 日(木)

事前に発送したいいくつかの支援物資を現地で受け取る予定であったが、配送トラブルのため「使い捨てビニール手袋」のみの受け取りとなる。急遽、鹿児島市内のホームセンターに行き「簡易トイレ」を購入。人吉市まで移動しホテルに一泊。翌日に八代市へ移動。八代に入ると倒壊し、屋根にブルーシートが敷かれている家屋が多く見られるようになった。



【八代ひかり保育園】

八代市保育協会会長・副会長、八代市保育園連盟会長・副会長が集まってくれていた。八代市内の状況を聞く。

・八代市内は4割が生活用水で井戸水を使っている。断水は解消したが砂交じりの所が多く生活用水としては使えない。今後、保健衛生面が心配。インフラ整備のためには井戸を掘りなおす所が多くなり、かなりの時間がかかると思う。30メートルの井戸はほぼダメで60メートルの井戸は使える所もある。地盤沈下して水があふれている箇所もある。工事業者がなかなか見つからない。暴利な請求をする悪徳業者もある。空き巣の被害も市内で増えている。

・八代近くの断層で割れていない部分がまだあり、今後も大地震が起こる可能性がある。去年は水害被害があり、1年経ったと思ったらまた地震。今後、また大きな自信があったら精神的に耐えられないとおっしゃっていた。家が倒壊してしまった職員もいる。今後のケアも必要。

・園の被害としては駐車場の地面が亀裂、隆起してしまっている。

・今必要な物資 紙皿 紙コップ 消毒関係 オムツ等



【聖愛幼稚園】

- ・断水は解消されたものの水は少ない。電気は早い段階で復旧していた。各家庭、井戸水が多いので時間が経って出なくなっている。そのため電動で吸い上げている所もある。
- ・来週(8月24日の週)から給食を全面再開予定だが、給食の食材に関しては魚が届かない状況。
- ・登園人数の子どもに対して職員の確保がどれくらい出来るかは不安があったものの、職員は出勤可能だったので大丈夫であった。8日(土)に水が出るようにはなったが少量のため、大人と学童の子どもたちは流し、園児のみは流さないで対応している。タンクの水の支援はあったが生活水の確保までは難しい。歯ブラシはしないでうがいのみの対応。日頃なかなか出来ない体験をしているので生きる力につながると良い方向に捉えるようにしている。
- ・市内のごみ収集は早かった。汚物などのごみを持っていてもらっているのは助かっている。10年前の経験から復旧はかなり早かった。コンビニの再開も早かった。店が大きい所はまだまだ再開できていないところもある。
- ・登園している子は「怖い」という子もいるので、園にいる間は心が和らぐように保育を工夫している。余震も震度3、4が1日2回くらいは続いているので余震対策のために各クラス2人以上は必ず置くようにしている。



固定の家具が地震の揺れでズレてしまっている。

横揺れが20秒くらい続いたとのこと。

・行政より地震報告一覧表というものが来

ていて日々アップデートされている。発災後は出来るようになったら連絡してくださいと連絡があった。無理しないようにとも言われた。この話の流れで台風の際はどうなっているか聞いてみたところ、前日には休園判断の連絡が来るとのことだった。水害、災害を通じて行政レベルでの意識の高さを感じた。行政連絡については変化があれば連絡をする体制になっている。学校と同じ対応で判断スピードも速い。この辺も10年前の震災の経験が活かされている。

行政判断が早い事もあり、八代全体の職場の理解も

早くなっている。机上ではなく現場への理解が大事だと思っていると話されていた。

- ・今後、八代市がどう変わっていくかには不安を感じている。大きな企業もなくなり人口減少傾向にある。井戸水を水道水にするにはかなりの時間を要する。インフラ整備には時間がかかると思う。
- ・今後、訓練の仕方が変わっていく。訓練のための訓練ではだめ。今回は夕方に発生して子どもが帰っている状況の中であつたが、どの時間に起こるかかわからないのでその辺も想定した上で訓練を行う必要がある。10年前の震災後に園舎を建て替えていたので大丈夫であつたが、お寺はほぼ全滅だった。ガラスの飛散防止や転倒防止など日頃の備えがかなり大事になってくる。
- ・日頃から地域との関わりがあつたので助け合うことができた。水をもらったり様々な所からの支援を受けることが出来た。園が機能しないと親が働けないので日頃からのつながりが大事であると身に染みた。



↑ この 2 枚の写真は聖愛幼稚園の近くの建物。人が挟まれて近隣の早い通報で助かったとのこと。

・8月 24 日の週から給食を再開するにあたり、紙皿(おわん型)、紙コップが必要になってくる。

【文政保育園】

・今回の震災では園の前の渋滞がかなりひどかった。暑さ対策もあり車で過ごす人も多かったのでガソリンスタンドがかなり混雑し、通勤もいつもの倍以上かかる現状だった。電気が止まっていなかったこともあり、震災当日は支援センターに泊まった。

・前回の震災から津波対策として津波シェルターを購入した。



・今まで保育の勉強会をしていた仲間が手伝いに来てくれていた。仲間が来てくれることで安心感がある。

・発災後、29 日 30 日は労災病院の看護師の子を預かった。31 日に職員全員が集まり今後の対策を考えた。目の前の子どころではない状態の職員がほとんど。不安を言葉にしていた。断水のため水が出ない状況だったので役所に連絡をしたが発災後は役所もパニックになっていた。8 月 3 日にやっと給水車が到着した。職員のトイレを先に使えるようにした。

・震災後には段階がある。2週間経つと子どもの発熱や衛生面での管理が重要になる。職員は休もうとしない、休憩も取ろうとしない。休めと言わないと休まない保育士特有の性質がある。小さいストレスが

溜まっていくが「大丈夫です」と我慢をしてしまう。今まで出来ていたことが出来なくなるので、言い訳を作ってあげることが大事。精神的に強くならないとやっていけない。

・思いきり泥遊びをさせたくても汚れたものを返す罪悪感もあり、日頃のようなダイナミックな遊びは気が引ける。保育の仲間が来てくれたことで保育の面でのフォローをしてくれている。手伝いに来てくれた仲間が被災者の精神的な支柱になる事が大事。俯瞰して指示を出せるのが強い。派遣として1か月くらいいてもらえると現場としては非常に嬉しい。



・支援センターには町田商店や吉野家が来てくれて食料を配ってくれたり、保護者の方が整体や眉毛を整える企画をしてくれた。贅沢と呼べること、自分へのご褒美などを入れていくことでケアをしている。

・土曜保育については文政第二保育園を開けて一緒に保育をした。日頃から交流していたのでスムーズであった。

・10年前とはネット環境も変わってきて情報がまわるのが早い。状況、季節によって震災の対応は変わってくるのでその辺も想定しておくといい。

【あけぼの保育園】

園長先生とのアポは取れなかったが、お寺があって倒壊してしまっているということで建物の見学に行った。園自体は比較的新しい建物だったが、お寺とその周辺の被害はかなり大きかった。保育園協会の会長さんからはなんとかケアしていきたいと話があった。



被災地訪問を終えて

- ・実際に現場に入ったことで地域や園ごとの被害状況や、今必要な物資の違いがあることがわかった。日頃から地域のつながりの重要性がわかった。行政と一体となって同じ温度感で仕組みを作っていくことの必要性を感じた。
- ・災害の状況、時間の経過とともにフェーズ、必要物資は変わってくる。現地とのパイプがあるだけでもその時々に必要なものがわかるので、甘えられる環境を用意することが支援の一つだと感じた。
- ・心のケアの重要性については現地の温度感を感じないとわからない。今回、学んだことで職員やその背景にある家族のことまで考えながら優先順位をつけていき、判断する必要があると感じた。
- ・明日は我が身。関東でも大きな地震や水害が起きている。BCPにどう活かしていくか、日頃からの備えの重要性を感じた。今後も現地とのやり取りをしながら被災地支援を継続し、お互いのつながりや関係性を大事にすべきだと思った。園長会として出来ることは限られてはいるが、現地を知る→自分の地域に活かす流れを構築し、災害対策の強化に努めていきたい。

以上